

和歌山県海南市

大崎地区の歴史と現状を体験的に調べ、暮らしを継続的なものとするためのステップを議論する



【活動の基本情報】

参加学生数：8名

(1年生：7名、2年生：1名)

活動期間：2023年5月～

担当教員：八島雄士、遠藤理一

1. 活動実施の経緯

「げんき大崎」のみなさんは、大崎地区の魅力が海と山が接近した自然環境と港町として栄えた歴史・地理にあると語られます。また、特徴的なつぼ型の大崎湾と泳いで渡ることも可能な無人島（弁天島）は、地区の暮らしを持続的なものとする1つの資源とも考えられています。また、新鮮な野菜や鮮魚等の朝市、食事等を提供できる施設「げんき大崎館かざまち」に加え、一棟貸しの民宿「百船人」も設置されました。地区の皆さんが学生と議論し、若者・よそ者視点の発想からアイデアを出していただきたいという想いでスタートしました。

2. 活動の内容

新たに「大崎地区の歴史・地理と現状を体験的に調べ、暮らしを持続的なものとするためのステップを議論する」ことを目的に、2回生1名、1回生7名が参加しました。サポート教員でも、観光学部教員として着任された遠藤理一先生が加わりました。特に、暮らしに関わる「植物、魚、農作物、柑橘類、食、行事・イベントなど」を要素に、カレンダーの流れでポスターとして可視化するフェノロジーカレンダー作成を提案いただきました。さまざまな活動をするなかで情報収集しました。具体的には、大崎地区住民向けイベント、大崎で事業化されているシーカヤック体験、げんき大崎の夏イベント、地域の歴史的な記録に関わる話し合いなど、9回の現地活動を実施しました。

3. 活動を通じて

初めての1回生が多く、フレッシュな雰囲気です。参加した学生の活動意欲が高く、サポート側として大変に助かりました。その成果がフェノロジーカレンダーに現れてきています。次年度には、今年度までの活動の成果を継承しながらも、地域の集まりに積極的に参加しながら、地域の方、学生とともにあるべき活動の形を議論していきたい。げんき大崎の皆様のサポートも手厚く、楽しく良い経験ができました。

4. 成果ポスター



【基本情報】

- ・海南市とは
和歌山県の北西部沿岸に位置する人口約5万人の市。
- ・活動状況
私たちは海南市の中でも北西にある大崎地区を主な活動地としています
- ・活動メンバー
2年生1人、1年生7人の計8人で活動しています。



【活動内容】

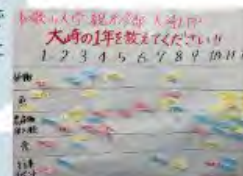
宿泊研修

6/19～20日にかけて1年生全員で現地訪問し、19日夜には大崎の皆さんとバーベキューをしながら、色々なお話を聞かせて頂きました。20日にはシーカヤック体験の後、カレーを作りました。2日間ではありましたが、貴重なお話や体験を沢山させて頂き、大崎の魅力に触れることができました。



秋祭り

3年ぶりに区民が集まる大崎の一大イベントで夜店やカラオケ大会、餅まきなどがありました。雨の中での開催ではありましたが、多くの区民が集まり、最後の餅まきでは年齢関係なく餅を奪い合い、大盛況でした。私たちは夜店のお手伝いをさせていただき、区民の方と交流するとともに区民の方々の温かさを感じました。



フェノロジーカレンダー



私たちは、大崎の1年を知ることができるフェノロジーカレンダーを含む、パンフレット作りを行っています。フェノロジーカレンダーは植物・魚・農産物などの項目があり、他にも、大崎の祭りやかざまちカフェについても知ることができるページもあります。昨年度作成したおおさき周遊マップもパンフレットに掲載します。このパンフレットは、来年度に印刷し、和歌山市・海南市内の施設に配架することを目標にしています。

【今後の展望】

来年度は、パンフレットの写真付き完全版を作成・設置するなど、大崎について知ってもらえるような取り組みを行ってまいります。また、今年度は現地で体験する機会が多く、私たちのアイデアを出す機会が少なかったため、大崎LPPインスタの本格運用やPR動画の作成、イベントの運営など、体験させて頂いたことを踏まえた魅力発信に力を入れていきたいと考えています。